

令和３年度 第２回伊東市政モニター会議録（要旨）

日 時 令和３年１０月２８日（木）午後２時～３時３０分

場 所 市役所地下 災害対策本部室

出席者 市政モニター９人（１人欠席）

市長、副市長、企画部長、秘書課長、担当

１ 開会

２ 市長あいさつ

第２回市政モニター会議については、本来８月２７日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止措置等重点区域に指定されたことを受け、本日まで延期させていただいた。

本日は施設見学を兼ねて特別に災害対策本部室で会議を開催した。建設的な意見が交わせることを楽しみにしている。

また、本日までに３通の市政モニター通信をお寄せいただいた。今後も小さな気づきでもいいのでお寄せいただきたい。

３ 懇談

災害対策本部室及びコミュニティエフエム放送局設備整備工事の概要について（事務局）

（災害対策本部室の紹介と今年度に行うコミュニティエフエム放送局設備整備工事の概要について報告）

ワーケーションやサテライトオフィス等を含めた移住促進施策について

【モニターＢ氏】

私は太極拳と空手の教室を開いていますが、高齢の移住者の方が多いということを感じています。先日自宅の車庫で太極拳の練習を１人でやっていたところ、７５歳の移住者の方に「太極拳をやりたいです。」と声をかけられました。新型コロナウイルス感染症の影響で、家でずっとじっとして運動をしたかったというのもあるようですが、移住者の方は、何か安定してできることを求めているなど実感しました。

生涯学習課で発行されている「まなびのとびら」については、私も伊東に住み始めてからずっと見続けていますが、配架している場所が限られていますので、もっと幅広くいろいろな方々に見てもらうことも大事ではないかと感じました。

内容も、もう少し幅広くリサーチして、紹介できる教室を増やしていったらどうでしょうか。移住者の方のアフターケアを考えてみたいなと思い発言させていただきました。

【市長】

太極拳は私も少しやったことがあります。近年体幹トレーニングが流行っていますので、愛好者や興味を持っている方が増えていると思います。「まなびのとびら」につきましては、皆さんもお知り合いの方などにご紹介いただきたいと思います。また、教室やサークル活動について、市民の皆様が体験したことや、聞き及んだことも含めて、移住を希望する方や移住先を考えている方などに紹介できるような場面を作りたいと感じました。

【モニターA氏】

私は令和元年に伊東に家を購入し、去年の3月に移住してきました。すごく自然が豊かで、山にも海にも近くて、きれいな川もあってすごく良いところだなと思う一方で、廃屋や空店舗などを目に見ると、すごく悲しい気持ちになると同時に、伊東が寂れてしまうのではないかと心配になります。サテライトオフィスやワーケーションなどを市でお考えならば、とても素敵で個性的な空家がたくさん見受けられるので、上手くきれいに地元の業者さんに直してもらって、移住者の方や在宅ワークの方に利用してもらうなど、少し新しい門戸を開いていくと、市内がより活性化しますし、それをきっかけに移住者の方や観光客もさらに増えていくのではないかと思います。

また、インフラの整備についてですが、ずっと横浜に住んでいまして、伊東はほとんどが浄化槽ということを知って初めて知り、とてもカルチャーショックでした。その浄化槽も、トイレの汚水だけを浄化していて、台所などの水はそのまま流されている状況が多いということも初めて知り、とても驚きました。やはり地球の環境をより良くしていくというのは世界のテーマでもありますので、とてもお金のかかることですし、大変なことですが、長期的な計画を立て、きちんと予算を取って整備していった方がいいのではないかと感じています。

【市長】

自然が豊かだということは、皆さんにおっしゃっていただいています。自然を維持するのもかなり費用がかかりまして、自然豊かな分災害によって破壊されるものも多いです。例えば、電線に倒木が引っかかり、それが原因となって停電が起きますので、予防伐採について現在東京電力と協議を進めています。道路敷などの公共用地であれば切ることができますが、私有地だと手をつけられな

いので、東京電力と役割分担を決めてこれから進めていきます。

廃屋や空店舗につきましては、一般住宅のリフォームをする際に、市内の建築業者を使った場合には10万円を上限に1割の補助金を出しており、大変好評です。また、起業をする方に対しても補助金を出していますので、移住者の方にもご紹介していきたいと思います。

下水道につきましては、相当お金がかかります。ご自宅が単独処理浄化槽だったということですが、合併処理浄化槽という環境に優しいものに転換できるように補助制度がありますので、皆さんに周知していきたいと思います。

【モニターC氏】

三つの提言があります。一つ目は「住み続けたいまちアンケート」についてです。よくテレビで「住みたいまちアンケート」というものを見かけますが、あれは外から見て「あのまち素敵だな」「行ってみたいな」という視点です。私の提案は、“住み続けたいまち”という観点から伊東を見直すということです。長年住んでいる方、移住された方、年齢層、男女など、いろいろな分類をして、アンケート結果を整理すれば、様々な良いところや課題が見えてくると思います。住み続けたいというのが、伊東に移住したいと思うポイントになるのではないのでしょうか。アンケート結果や今市が努力していることをまとめて、何らかのメディアを使って伊東に興味がある人に発信をするというのはいかがでしょうか。

二つ目は消費するまちから創造するまちへの転換です。伊東は観光都市ですので、お土産を買う、自然を見に行くという一過性の魅力に留まってしまうイメージです。若者や働き盛りの方、そして高齢の方も、伊東へ移住して何かをしたいと思っている人にとってはちょっと不十分じゃないかと思います。そこで、例えば、残念ながら学校の統廃合が進んでいますので、跡地の一部を利用して企業を誘致したり、または専門学校や高専などの分校を誘致する、あるいは貸しオフィスにして新しい起業家にチャンスを与えてあげるといったことをしてはどうでしょうか。伊東高校城ヶ崎分校は非常に芸術性が高いと評価されていますので、芸術学校などを作り、伊東にいる有名な芸術家の方々に講師になっていただいて、文化創造の拠点にしてもいいのではないかと思います。

また、音楽に関していえば、伊豆高原にある音楽スタジオには昔から有名な音楽家の方が来られていると聞きました。そういったことを宣伝して音楽活動を発信するのも良いのではないのでしょうか。

三つめは、移住者への人的支援についてです。移住をしたいという方に対する補助制度についてはかなり成功していると思いますが、もう一つお願いしたいのは、お金を使うのではなくて、例えば市や職員の方が持つておられる人材のネットワークを使って相談に乗るということを積極的にやってはどうかと思います。起業する方や新しい活動を始めたい方に事業の募集をかけ、その中から実現

可能で魅力的な事業を採用してサポートをしてあげれば、伊東に行けば何かできる、自分がやりたいことが実現できるという、人を呼び込む一つの魅力になるのではないかと思います。

【市長】

おっしゃる通り「住みたいまちアンケート」はよくありますが、「住み続けたいまちアンケート」というのは意外にないと思いました。現状では市民満足度調査という、伊東に住んでいる方2,000人を抽出してアンケートを実施しています。それには「これからも住みたいか」という項目なども入れてありますが、対象を移住者の方に絞ったり、他にも移住に関連した項目を入れることで、ニーズや欠けているものが掴めるかもしれません。私達にとっては当たり前のように感じてしまうものでも、他の人には魅力的に映るものはたくさんあると思いますので、参考になるのではないかと思います。

二点目につきましては、一時的な消費だけで満足するなということだと思いますが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えますと、今まで通りのことをやっていたではこれから先衰退するということが目に見えております。特に観光は全国どこの市町村も力を入れてくると思いますので、そういう点では今若手を中心に新しいことに挑戦しています。特に紹介したいのはデジタルマーケティング事業で、ステイホームと言われていた時期に、伊東の景勝地を紹介する動画を作成し、日本への観光客が多かった海外10ヶ国を抽出して 유튜브 で発信したところ、あっという間に2,000万人の方が視聴してくださいました。自治体が行った動画配信では新記録を達成しました。これは40代前半の職員が考え出したことで、私はよくボトムアップ事業と言いますけれども、そういったものをこれからもっと取り入れて、新しい観光スタイルに繋げていきたいと思っています。それから、本日の会議と同じように、若い世代の様々な団体の代表者に集まっていただく未来ビジョン会議という会議を、私が市長になった時から始めてもう5年目になります。テーマを決めてディスカッションしていただいています。やはり私達には思いつかないようなこともたくさん出てきます。いろいろな方が自分の考えたことを発表できて、それを実際に市の施策として取り入れることができるように、これからもやっていきたいと思っています。具体的にお話がありました学校の跡地につきましては、企業誘致も含めて検討しておりますので、引き続き進めていきます。音楽スタジオにつきましては、昔風の噂で有名人が来ているとファンが押し掛けて嫌がられたこともあったようです。当人たちからしてみれば、そっとしておいてほしいという気持ちがあるのだと思います。そこは慎重にならなければなりません。そういった施設もまた何かで活用できるかもしれません。

三点目の人的支援につきましては、まずは市役所の職員が親身になって皆さ

んの相談に乗り、それから地域でサポートしてくださるような方々を紹介していくようなことも必要ではないかと思います。個人情報保護の問題がありますし、あまりおせっかいになってはいけないということもありますが、別の場面でも同じようなご提案をいただきましたので、サポーター制度のようなものを考えたいと思います。

【モニターC氏】

二点追加したいのですが、一つは、私はJ Aあいら伊豆の皆さんにお世話になっていろいろ教えていただきました。そのことを野菜が好きな人に教えてあげたら、「ちょっと紹介してよ」と言われました。既存の組織やネットワークを意外と皆さん知らないなので、ご紹介できればいいと思います。

もう一つは、私は7年前に伊東に移住してきたとき、横浜から猫を5匹連れてきました。横浜にいたときは下痢をしたり、脱毛したり、ちょっとぐったりしていたのですが、こちらに連れてきたら、5匹とも元気になりました。やはり水と空気と自然が良いのだと思います。

【市長】

そう言っていただけて大変嬉しいです。J Aも当たり前にあるものと思ってしまうがちですが、野菜作りだけではなく、いろいろな場面でサポートして下さると思います。市では産業課がJ Aと連携していますので、移住者の方にご案内できるようにしたいと思います。

【モニターD氏】

私事ですが、宇佐美にコワーキングスペースをオープンしました。まだ利用者はそれほど多くありませんが、移住者の方や二拠点生活をされている方の利用があります。その方たちは、地元の方たちとコミュニティを作りたいとおっしゃっていました。移住者の方と地元の方が交流できる場作りというのは、間違いなく必要ではないか思います。

また、先日「宇佐美で温泉に入って海鮮を食べたいのですが良いところがありますか」と聞かれましたが、正直答えられませんでした。伊東に住んでいる人と同じ質問を投げかけると、おそらく名の通った大きな施設の名前が出てくると思いますが、聞いた方からすると、そうではなくて地元の人が知る穴場を知りたいと思うようです。例えば、民宿で日帰り温泉をやっているところがあっても、教えることができないとせっかく来てくれた人も他の場所にどんどん流れていってしまいます。まずは、地元に住んでいる自分たちが伊東のことをもっと理解する必要であると思い、今自分で宇佐美に特化した情報誌を作り始めています。宇佐美区の方にも相談して、回覧板で回してもらえれば、区内の皆さんに自分た

ちの住んでいるまちにはこういったところがあると、もう一度認識してもらえ
ると思います。そうすれば、例えば息子や孫が伊東に帰ってきたときなどにも話
ができます。外部の方を受け入れる体制を作っておくのは必須条件ですが、受け
入れる側がちゃんと伊東のことを理解していないといけないと思います。

ワーケーションについては、名前は知れてきていますが、ワーケーションをし
たいと思っていてもどうしたらいいのかわからないという方もいると思います
ので、こちらでモデルコースを作って発信していくのはどうでしょうか。旅行会
社などはもうすでにやっていますが、提携している宿泊施設を使ってという形
になっていると思います。そういった宿泊施設以外でも、ここに泊まったら、こ
こで働いて、ここで休憩してというようなモデルコースをまずはなぞってもら
い、そこから行動範囲を徐々に広げてもらえばいいと思います。

サテライトオフィスについては、企業が何を求めているかによると思います
ので、企業にヒアリングをしないとわからないと思います。

最後に、私は生まれてから30年間ずっと宇佐美に住んでいて、住民同士のつ
ながりがとても強いと思っています。外部から来る方たちからすると、なかなか
そのコミュニティに入りづらいと感じるようです。宇佐美に限らないとは思ひ
ますが、コミュニティに入るきっかけがつかめず、居心地の悪さを感じて、結局
他の地域に出て行ってしまうということもあるのではないのでしょうか。すでに
密着しているコミュニティを開放するのはおそらく難しいと思いますので、誰
か間を取り持ってくれるキーマンがいれば、移住者の方も地元の方も安心して
交流を持つことができ、つながりがどんどん生まれてくると思います。その役割
を担うのが行政機関なのか、民間なのかはわかりませんが、そういったことも考
えていかなければいけないと思います。

【市長】

私はまだコワーキングスペースに訪問できていませんが、これから期待をし
ていますので、ぜひ情報発信をしていただいて、いろいろな方に活用していただ
ければと思います。

おっしゃる通り、やはり伊東に来て地元の方といきなり親しくなることは難
しいので、まずはDさんが窓口になっていただいて、行政も協力したいと思いま
すので、お困りになったことがありましたらご相談ください。

お店などの紹介につきましては、大きな施設ではなくて、知る人ぞ知る良いと
ころを聞きたいという気持ちはわかりますが、私も「この人の好みに合うか」な
どと考え、紹介する時に悩むこともあります。良いお店が一覧表や冊子になっ
ていればわかりやすいので、今後考えたいと思いました。

ワーケーションにつきましては、テレワークとバケーションを掛け合わせた
造語で、いろいろな地域で積極的に推進していますが、モデルコースは意外にな

いように思いました。これから観光協会などに相談してみたいと思います。

サテライトオフィスにつきましては、会社のビジョンや社員のニーズによると思いますが、アピールポイントはやはり温泉だと思います。伊東の温泉の湧出量は、全国で4番目と言われています。日本有数の温泉地ですので売りにしていきたいと思います。

コミュニティの中の結びつきの強さにつきましては、私も感じています。排他的と捉えられてしまうこともありますが、その結びつきが治安の維持や地域での子育てにすごくプラスに作用していると思います。そのコミュニティの中に上手く溶け込ませてくれるような、仲介役となる方がいれば移住者の方も安心できると思いますので、参考にさせていただきます。

【モニターD氏】

先程商店街のお話が出ましたが、私がコワーキングスペースを立ち上げるときに、人通りが多いので商店街の店舗を検討しました。ところが、商店街は2階に大家さんが住んでいて、1階が店舗になっているところが多く、もう貸さないという声をすごく聞きました。「どうして貸さないのですか」と聞いたら、「どういう人が何をやるかわからないから」と言っていました。不動産屋を通せば、ある程度把握できると思うのですが、それでも信用ならないということだと思います。商店街に出店すれば市から補助金が出ますが、そもそも商店街に入ることができません。例えば、1階にどんな人が入ってくるかわからないから不安だという場合に、不動産屋の担保でも足りないのであれば、市役所の担当課と1回面談をして、行政と不動産屋の担保があるから安心できるという形にするなど、後押しができる何かがあるといいと思います

【市長】

おっしゃる通り、商店街の構造として、1階が店舗になっていて、玄関もなく店のシャッターを開けて出入りしているようなところが多いです。改装するにも費用がかかりますし、皆さん貸さなくても困っていないというのが現状だと思います。民間同士の契約について行政ができることには限りがありますが、参考にさせていただきます。

【モニターE氏】

伊東市は高齢化率が高く、今後病院ではなく在宅で最期を看取るということが多くなってくると思います。診療所は多くありますが、往診してくれる先生はすごく少ないので、最期の看取りはどうなってしまうのか不安です。私は介護の仕事をしていて、往診してくれる先生の大変さも知っています。以前ケアマネージャーの会議に出ていた先生が、「伊東市民病院にそういう科ができるまでは

頑張る」というようなことをおっしゃっていたのが印象的で、そんな思いで頑張ってくださっているのだなと思いました。安心して最期を迎えられる伊東市であってほしいと思います。

【市長】

まさしくその通りです。在宅での介護は国が進めていますので、自宅で最期を迎える方も増えてくると思います。現状では往診ができる先生が限られていますが、最期まで安心して生活できる伊東市にしていきたいと思います。

【モニターE氏】

その先生はそういう科を作ってほしいというようなことをおっしゃっていました。往診をしてくださる先生は昼の診療もやり、夜も来てくださるのですが、やはり休む時間も必要です。なかなか事例はないと思いますが、大きな病院で往診科のようなものを作っていただきたいです。

【市長】

伊東市民病院とは会議で意見交換を行っていますので、早速ご意見をお伝えしたいと思います。

【モニターF氏】

私は仕事柄市民の方々と接する機会が多いのですが、皆さんから伺った意見について二点ほどお話させていただきます。

まず、伊東への移住のメリットとしまして、観光客向けの事業を行いたいと思っている事業者にとって、観光地である伊東は適地でありますし、開業に対しての補助金の制度もありますので、そこは良いところだと思います。また、先程も自然が豊かだというお話がありましたが、育児に適した環境だという意見がありました。伊東市民はわかっているかもしれませんが、他の地域から来た方はもしかしたらわからないかもしれませんので、そういったことをメディアなどを通して知らせていければと思います。

二点目につきましては、学校の統廃合により生じた跡地をどのように活用するのかという意見がありました。インスタグラムなどを見ると、廃校になった学校を「泊まれる学校」というようなテーマで大々的にアピールしていたところがありましたので、何かに活かしてほしいです。また、せっかく広い土地があるので、すぐにはできないことだと思いますが、人が働ける場所を考えてほしいという意見がありました。

【市長】

商工会議所の職員として事業者と毎日接していると思います。やはり観光地ですので、観光客向けの事業を行う方には選ばれる場所だと思います。

学校の統廃合による跡地利用につきましては、宿泊施設やレストランなどに活用しているところがありますので、今後企業誘致について今までやっていなかったことに取り組まなければならないと思います。

【モニターG氏】

私は仕事柄ワーケーションやサテライトオフィスを誘致する側の立場ですので、今日皆さんのお話を聞いて、納得できる部分や勉強になった部分がたくさんあります。私も生まれてからずっと伊東に住んでいますが、地元の人間として考えると、やはり自分たちのコミュニティの中に知らない人が来るとなれば、どんな人が来るのかは気になります。先程お話がありましたが、移住してくる方が地域のコミュニティに溶け込めるようにするというのは大切なことだと思います。以前伊豆高原に物件を持っている方から、「地域に住んでいる人はどんな感じの人ですか」と聞かれたことがあります。それはやはり地域の方と上手くやっていけないと生活ができないと思っているからです。スーパーや駅が近くにないないということよりも、むしろ人間関係などを気にする方が多いのかもしれない。

その中で、これからどんなことができるかと考えると、例えば、街灯整備や道路の清掃などを含めた、移住定住の促進に繋がるような事業を積極的に行う町内会等に補助金を出すのも一つの方法ではないかと思います。地域として受入体制を作ってくれるきっかけになりますし、自分たちの町内に人が増えれば町内会費も増え、空家もなくなっていくなど、いろいろなメリットが出てきますので、そういうことができたらいいなと思いました。

また、観光のまち伊東として、私たち観光協会や旅館組合も、ワーケーションやサテライトオフィスの誘致には力を入れています。ワーケーションについては、インターネット環境がやはり重要で、各ホテルや旅館などは大体Wi-Fiが整っていますが、やはり街に出るとつながるところが非常に少ないです。もう少しフリーで使えるものが街中にあった方がいいと思います。

最後に、ホテルや旅館などはどちらかというと観光のイメージが強く、落ち着いて仕事をするというよりバカンスに近いような印象ですので、移住定住を含めて考えてもらうとなると、例えば、市営住宅の空いている部分などを上手く活用できたらいいのではないかと思います。

【市長】

町内会等に何かインセンティブをつけていくというのは、すごく面白いアイデアだなと思いました。それから、移住してくる方はやはり人間関係に不安を感

じる方が多いと思います。

まさに今月から行政区等に防犯カメラの設置に係る費用の9割を補助する事業を始めまして、今年度は約140ヶ所に設置する予定です。これは犯罪が起きたときや、高齢者の方に何かあったときなどに使えると期待しています。防犯灯の設置に係る費用についても補助しておりますが、そういったもの以外にも、条件をつけて補助を出すというようなことができるかなと感じました。

市営住宅につきましては、かなり空いている部屋がありますが、老朽化している施設が多いです。それぞれの市営住宅で町内会を構成しているところもありますので、そういった意味では、移住してくる方にとってはコミュニティに入りやすい環境であるのかもしれませんが。市営住宅の活用についてはまた検討していきたいと思います。

【モニターH氏】

物件を確保して移住してきた時に、「こんなはずではなかった」ということが出てきてしまうこともあると思います。慣れ親しんだところに移り住むのであればいいのですが、初めていらっしゃる方だとやはり後で後悔したり、他に移ってしまうという可能性もあると思いますので、もし可能であれば、現状行っているかどうかわかりませんが、空家等をリフォームするなどして、お試し用の住まいを安い料金で提供し、一定期間実際生活をしてみていただくというのはどうでしょうか。例えば、対島地区や宇佐美地区、街中など、いろいろなところあるといいと思います。そのお試し期間の間に、コミュニティに入れるきっかけとなるようなイベントや地域の方々が集まる場を用意できれば、なおいと思います。実際に生活してみてもらうことによって、確信を持って移り住んでいただけるのではないかと思います。

【市長】

実際に伊豆半島の中にそういったことを行っている自治体はあります。空家が多くなりましたので、そこをまたお試しという形で活用できれば、意外と希望する方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。

【モニターI氏】

私は結婚を機に21年前に伊東に移住してきましたが、移住という感覚がないくらいに、子育てや仕事である程度のコミュニティができて、居心地よく住めるようになっていました。

今回のテーマを受けて移住施策について勉強したいと思い、総務省の移住推進施策事例集というのを参考に見ました。いろいろな自治体で移住者を受け入れるに当たって取り組まれているようですが、そこでハードルとなるのが、皆さ

んがおっしゃっていたことですが、そこで居心地よく暮らしていけるのかという問題のようです。

住まいについては、市長がおっしゃるように空家を活用して、空家バンク制度を敷いている自治体も多いようです。実際に伊豆高原などにも大きく立派な空家がたくさんあり、都会の子育て世帯の方たちが間取りを見たら、きっと「子どもをこんなに広い家で育てられたら素敵だろうな」と思うのではないのでしょうか。そういった物件を実際に活用したり、紹介できるようになると、子育て世帯の移住が進んで、税金の増収や子どもの増加にもつながっていくのではないかと思います。

コミュニティについては、移住者ネットワークというものを作られている自治体があり、自然発生的なものや自治体主導のものもあるようです。また、移住者だけのネットワークもあれば、地元のコミュニティとの橋渡しをしてくれる人がいて、広く大きな繋がりを持てているところもあるようです。どなたか仲介者がいればいいんですが、上手いかないうなら行政である程度主導していただくといいと思いました。

また、移住先として伊東を選んでいただくには、伊東を上手くアピールできる人が必要だと思います。どこに移住しようか考えている人を呼び込めるように、専門のセールスパーソンがいるといいと思います。

【市長】

空家バンクにつきましては、静岡県宅地建物取引協会と協定を結んでいます。不動産屋に話を聞くと、活発に売買が進んでいるということを知ります。これは分譲地内の元別荘などをリノベーションして、安く提供しているものが中心だそうです。今は売れる物件がないほどだということで、問い合わせも多いようです。ただ、実際住んでいても二拠点生活なども含まれていると思いますので、やはりしっかりと伊東にお住まいになっていただけるように努めてまいります。

移住者ネットワークにつきましては必要だなと思いました。先程からお話にありますように、移住者同士というよりは、地元の方と移住者の方を行政が中に入って手を握ってもらうことも必要だと思います。私の知るところでは、不動産屋がそういう役割をしてくれているという話も聞いており、売買に関わった方と親戚のようなお付き合いをしいてる事業者が非常に多いです。そういった意味では十分橋渡し役になっていると思いますので、例えば、移住者ネットワークのコーディネーター役を正式にお願いするというようなことも考えたいと思います。